

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170202824		
法人名	(有)アドスコミュニティーズ		
事業所名	グループホームボブラ		
所在地	札幌市北区新川3条4丁目8-40		
自己評価作成日	令和6年1月20日	評価結果市町村受理日	令和6年3月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0170202824-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和6年2月13日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)		

自己評価及び外部評価結果1F

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所の理念を作り、代表を始め施設長・管理者または職員へ理念の共有を実践へと繋げている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所を地域の方々に知って頂く為にも、ゴミステーション班長をし総会にも出席。近所での買い物で近隣の方もお会いするので積極的に挨拶を行う。又、子供避難所にもなっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の有る町内会は以前よりモデル地区となっていて町内環境整備・福祉に力をいれている。その為、少しでも出来る事を考え、家の鍵を無くし家に入れない等と困った事が有れば気軽に寄れるよう地域の人に向けて活かしている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会は、ここ4年間コロナ感染にて外部との関わりが出来ず書面で行っていた。実際に利用者、職員の活動や表情が見れず書面での意見交換のみであったが、今までの取り組みを理解して下さっており勇気づけられサービスの向上に活かしている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村との連携もコロナにより、電話での相談であったが、積極的に協力を得られるよう関係性を築けるよう取り組んでいる		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの実践は、代表を含め管理者・職員全員が日常から身体拘束の理由を把握して正しいケアに取り組めるよう(すぐに立ち上がる・声出し・玄関の施錠など)努めている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の徹底は日頃から、ニュースや自分の親がそうされたり、自分がされたと考える事を学んで貰い、人として虐待が見過ごされないように努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	監理者や職員は日常生活自立支援事業や成年後見制度等、実際に法律事務所の方が後見人の為、学ぶ機会もあり個々の必要性を関係者と話し合えるよう支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明と納得には、時間を取らせてしまいますが最初にはっきりご理解をして頂く事、心配な事・不安な事は特に話をし傾聴し十分な説明、理解・納得を図っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に関する利用者、家族等意見の反映は当初より大切にしてきている事で信頼関係を築き事です。その為になんかの時だけ意見を聞くのではなく普段から話し合え、職員並びに外部に表せる機会を設け運営に反映させている		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表、管理者は運営に関する職員の意見や提案は何時でも聞ける環境を設けており反映させている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表は管理者を始め職員個々と気軽に話しも出来、利用者との関わり方などを含め、勤務状況を把握し給与水準、やりがい等、職員が向上して行けるような職場環境・条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表は管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し法人内外の研修を受ける機会の確保(他GHと毎月合同研修実施)し、経験豊かな先輩からアドバイスなどを貰いながらスキルアップして行けるよう取り組んでいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表・施設長はそれぞれ同業者との交流が有り、それらを活かして情報交換等を含めサービスの質を向上して行ける取り組みをしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見知らぬ所での生活は誰もが不安ばかり、話したくても伝えられない事が沢山。そういった利用者が少しずつ安心して暮らせる用に職員、利用者同士で馴染めるような環境作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	始めに入居する段階で家族が困っている事、不安な事などの話を傾聴し利用者や家族の要望等にも聞き、その時点で安心感が持てる関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が「その時」必要としている事を見極め、時間が必要とされてもじっくり安心できるよう他のサービスも含めて努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と共に過ごし支えあう関係と作る意味で、本人を一方的に介護される側としないで、共に寄り添える関係を築いている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の間で支援する事もふまえ、本人と家族の絆が大切に続いていけるよう関係を築いている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自由に外出が出来ない事もあり、馴染みの人との関係が途切れないよう声かけをしている。又介護タクシーの使用で自宅や親戚・お寺などにも行けるよう支援に努めている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係の支援として、会話が成立するようであれば1階・2階へと行き来しお喋りをしたり、同じフロアでも職員が間に入り関わりが出来るよう支援に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係を断ち切らない取り組みとしてサービスが終了しても、地域的に顔を合わせる事も有るため、お会いして時には懐かしい話が気軽に出来る用、何時でも連絡・相談・遊びに来れる関係性に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人の人として、本人らしい暮らしが出来るよう今までの暮らし方や、どういった性格だったのかを家族に聞き出し本人の意向に添えるよう職員間でも情報を共有している。又、困難な場合は状況に応じた対応をし本人本位に検討している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの暮らししてきた環境と変わるのでダメージが最小限に抑えられるよう、暮らししてきた様子、生活リズム等を配慮しサービス利用の経過等の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの1日の過ごし方、心身状態などは各自違いが有る為、医師・本人に聞きながら有する力などの把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者のモニタリング及びカンファレンス等で本人がより良く暮らせる為の工夫を話し合い、家族にも介護計画書を理解して貰い、意見やアイデアを反映している。又、状況に変化があった場合は即時に見直しをかけた介護計画を作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は独自で考えて作ったものを使用していて、1日の様子やケアの実践・気づき等を記入。更に業務日誌に書き込みをし職員間で情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況、日々のニーズに対応し既存のサービスに捉われない柔軟にサービスが受けられるよう多機能化に取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握していく意味で、本人が持つ力を発揮しつつ安全で豊かな暮らしを楽しめる事が出来るよう地域の人達の力も借りながら支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人及び家族の希望を大切にし納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築いている。これらは医師の指示に従い職員が学び医師との信頼関係が築けている事から、家族・本人が安心してもらえている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は日常の中で変化や気づきを訪問看護師に伝達し相談・アドバイスを貰い、利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院などでダメージが起きやすい為、安心して治療が出来るよう病院関係者に1日の過ごし方や性格などを知って貰い利用者が安心して治療をし早めの退院が出来るよう関係づくりを行っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所では重度化・終末期に向けた方針も契約時に家族へは話をしており、状況に応じながら医師と管理者・家族で情報を共有しつつ職員間でもチームワークが図れ支援に取り組んでいる		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は勤務歴も長いことから、応急手当など含め実践力を身に付けている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・地震・水害などの災害時に利用者が避難出来る方法と避難場所は近隣宅など周知していて地域との協力体制を築いている		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保は、職員が利用者の性格や、今までの生きて来た姿等を家族から聞いている為、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望・表現や自己決定等は可能な限り職員側で決めず、本人が決めたり出来そうな事は上手くひきたし日常生活の中に活かしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合で日々の、その人らしい暮らしを決めつける事なく、あくまでもその時の状態や気分を見極め、一人ひとりのペースを大切に過ごせるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	誰もが、整髪・髭剃り・化粧をするなど、その人らしい身だしなみが出来るよう支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	生きている限り食事が出来る事は楽しい事で、利用者の中で職員と皮むきや盛り付け・片づけ等も一緒に行い、体で覚えている事の素晴らしさ・美味しいと言える事でとても良い表情を見れるのが嬉しいです		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取や水分確保を一目出来るよう1日の個人別の記録用紙に記載し職員が共有出来るようになっている。又、利用者の状態に応じた摂取量等もバランスを考え支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔は食べかす等の放置から肺炎等にも繋がりがりやすい為、食後の口腔ケア、出来ない所は職員が仕上げをし利用者本人の力に応じたケアを行っている。又、定期健診の実施をしている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターンは違いますが自立している・少し見守り必要・介助に付き添うなど違いはありますが時間で声かけをしたり、様子を伺いながら自立にむけた排泄に努めている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防と対応は、どうしても高齢になって来ると腸の動きも悪くなりますので、朝一番に豆乳の提供を行っており、ヨーグルトを始め腸活に繋がる運動なども取り組んでいる		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の嫌いな人は少ない。誰もが入るまで億劫だけど上がると「気持ち良かった」と話してくれたり表情に現れます。気分的・体調不良時は翌日にするなど臨機応変な対応を支援している。入浴剤の香りを変えて楽しませている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜の安眠はおおむね眠気がさしてくる時間帯に着替え居室誘導をし、着替えてから居間でテレビをみている利用者や居室で横になりながらテレビを見て眠りについたり、その時の状況に応じて昼間も対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の使用している薬は効果や副作用・どういった用法なのかを調べ、調剤薬局からも薬剤師から説明もあり学ぶ事が出来る。服薬を継続して様子の変化等の確認に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの状態等に違いは有るが、可能な限り笑う・楽しめる・私も出来た等、1日を大切に過ごせるよう、廊下を散歩、2階へお邪魔するなど気分転換の支援も行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出支援といえ、利用者の希望や当日の天候・体調を確認し散歩や買い物、プチドライブ等を心がけている。又、普段いけないような場所でも可能な限り外出出来るように支援している(自宅が殆どで行ける利用者も限られている)		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を持つことの大切さを理解できる場合は一緒に買い物に行き本人が支払い出来るよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙の支援として、本人自ら訴えがあった時や、職員側から声かけをし出来るようであれば支援をしている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地のよい共同空間づくりには、共有している居間・食卓スペースは自分の居場所が出来ようになっている、好きな時に居室から行き来が出来る。又、不快や混乱を招かないよう雑音・光・室温・湿度等にも配慮し、テーブルに花を飾って季節感等にも取り入れ、ゆったり過ごせ自分の低位置があり安心できるように工夫をしている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間における一人一人の居場所づくりは、話が出来る利用者が隣にいたり、一人で居間のテレビを見ていられたり自由で、食卓からカーテンを明けると外が見え空やら木々などが見れるよう工夫をしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く過ごせる居室の配所は入居時に愛用していた寝具やタンス、衣類、写真などを含め極力自宅に有る物を持ち込んで貰う事で見覚えがあり本人は安心感が得られている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が安全に暮らせる環境づくりを心掛け、自立した生活が送れるように工夫している		